

## (1)学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
組織能力の向上	<p><b>中長期的な重点取組の1</b> 「基礎学力・基本的生活習慣・コミュニケーション能力の向上、部活動・資格取得に積極的にチャレンジし、生徒一人ひとりの進路実現を図る。」</p> <p>(1)学年・分掌の情報共有・連携を深め、組織的対応が出来るよう努める。</p> <p>(2)生徒の実態に即した授業改善を目指し、「なかみ」の指導を充実させる。</p> <p>(3)生徒が遅刻・欠席せずに授業に臨むよう規範意識を高める。</p>	<p>(1)各種委員会での協議事項について全教職員との情報共有、意見収集に努めた。</p> <p>(2)授業公開週間を2回設定、大学教員等を招聘しての授業研究に係る研修会を2回実施することができた。</p> <p>(3)遅刻・怠学・服装頭髪指導等を徹底し、改善が見られない生徒には教務部・生徒指導部・学年が共同で個別に指導した。遅刻数はやや増加したものの、怠学・服装頭髪・特別指導件数は大幅に減少した。</p>	<p>(1)委員会において改善案等をスムーズにまとめることができたが、それらをいかにして全校的なものにしていくか、システム作りについても検討する必要がある。</p> <p>(2)大学教員による授業改善は取り組んだ教員にとって大きな成果があった。これを他の教員にどのように広げていくかが課題である。</p> <p>(3)多くの生徒が基本的な生活習慣をしっかりと身につけてきたが、一部の生徒が遅刻等を繰り返した。個別対応の仕方が今後の課題である。</p>
地域との連携	<p><b>中長期的な重点取組の2</b> 「学年通信・学校通信等の情報発信を積極的に行い、地域のニーズを正確に把握した活動に取り組むことで、学校の活性化や地域貢献につなげる。」</p> <p>(1)地域住民に本校の教育活動等をより良く知っていただき、地域との交流を推進する。</p> <p>(2)生徒の実態に即した系統的なキャリア教育のプログラムを策定し、実施する。</p>	<p>(1)学校通信は3回発行できた。また、ボランティア等、地域交流の取組は大幅に増えた。「地域住民アンケート」の学校理解に関する学校経営数値は昨年度 39.2 から 55.5 と大幅に増加した。</p> <p>(2)「産業社会と人間」の内容を改善し、計画的に実施することで、生徒の進路意識向上につなげた。「総合研究」への橋渡し方法が今後の課題である。</p>	<p>(1)引き続き積極的な情報発信に努めるとともに、より地域に密着した学校としての役割を果たしていくため、地域とどのような交流活動ができるかについてさらに検討を進める。</p> <p>(2)「産業社会と人間」や「総合研究」等を活用したキャリア教育を推進し、学力向上対策についてカリキュラムや指導方法を具体的に考えていく必要がある。</p>
進路指導・教科指導	<p><b>中長期的な重点取組の3</b> 「学校行事・会議・部活動等の精選・見直しと総勤務時間の削減を図り、教職員が元気にいきいきと職務を遂行することができるよう努める。」</p> <p>(1)職員が生徒と向き合える時間や部活動指導時間の確保のため、業務の効率化を図る。</p> <p>(2)職員のワーク・ライフ・バランスを推進する。</p>	<p>(1)各種委員会で学校行事、部活動の見直しを行った。学校行事の精選はあまり進まなかったが、部活動の職員満足度は過去最高となった。</p> <p>(2)健康管理の大切さを周知徹底し、年休やその他の休暇をできるだけ取得するよう呼びかけた。その結果、職員の休暇に関する満足度は向上した。</p>	<p>(1)年間行事の見直しは進んだが、時間的な余裕がなかったため、細部に至るまでの検討はできなかった。大胆なスクラップ&amp;ビルドも含め早い時期からの検討が必要である。</p> <p>(2)依然として加重労働時間の多い職員もいる。部活動が盛んになると、過重労働時間が増加してしまう。勤務時間と部活動指導のバランスをいかに取るかが今後の課題である。</p>

## (2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピアス指導、集会指導、イエローカードを用いた授業規律の確立等、職員が同じベクトルで取り組んでいる。</li> <li>情報発信を積極的に行い、地域住民・保護者の学校理解が進んでいる。また、近年は入学志願者が定員を上回り、生徒・職員とも自信につながっている。</li> <li>きめ細かな指導や習熟度別少人数講座、その他多くの講座などを設定し、生徒の実情や要望に見合った授業を提供している。</li> <li>職場には笑顔になれるユーモアがあり、様々な課題に互いに協力して解決しようとする雰囲気がある。</li> <li>教員が生徒と徹底して関わり、仲間づくりと人権意識の醸成に力を入れている。</li> </ul>
弱み	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の在職期間が短いため、職員は目先の業務の習熟に手一杯となりやすく、長期的な視点での取り組みが難しい。</li> <li>中間・年度末評価のアセスメントが十分に実施できていないため、業務の精選・効率化が図りにくく、新しい活動に結びつかない。</li> <li>本校生徒の実態に即した研修等、職員の切実な要望に応じた研修を企画しきれず、また研修に参加する時間的な余裕も少ない。</li> <li>分掌間や学年間での情報共有がまだまだ不足している。教職員の意見を吸い上げ、改善に資するシステムが必要である。</li> <li>地元小中学校との交流や地域連携は進んだが、今後も継続して実施するための組織づくりや実施計画が十分とは言えない。</li> </ul>

## (3) 学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
＜実施回数＞ 3 回	
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校関係者評価委員5名、校長、教頭、事務長、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、人権教育担当の合計12名で構成。</li> <li>第1回は主に前年度の学校評価の報告、新年度の「学校経営の改革方針」について説明し意見交流。</li> <li>第2回は各学年・分掌の中間評価と各種アンケート結果について報告・説明し意見交流。</li> <li>第3回は各学年・分掌の年度末評価と各種アンケート結果について報告・説明し意見交流、次年度の改善課題について検討。</li> </ul>

## (4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>あけぼの学園高校の職員室は良い意味でオープンであり、生徒と先生のコミュニケーションが取りやすい環境にある。</li> <li>上級生に対して下級生がタメロで言う。目上の人を立てる態度がないと社会で苦労するのではないか。</li> <li>挨拶ができないのは気恥ずかしいと思う生徒もいるのではないか。しかし、少しずつではあるが生徒は成長している。</li> <li>離職率の原因として体力があるようだが、体力は運動部活動の活性化だけではなく、食生活等、総合的に指導していくことが大切である。</li> <li>生徒のコミュニケーション力は大切だが、教職員のコミュニケーションはどうか。組織的な対応や、情報共有という課題においてこのことが大きく影響していると考えます。</li> </ul>

(5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組

- ・学校通信の定期的な発行等による情報発信をさらに充実させるとともに、アンケート等を通して地域のニーズを把握し、学校経営に活用していく。
- ・わかる授業による生徒の基礎学力向上をめざし、授業公開、授業研究を推進して、授業改善を学校組織全体の取組として継続させていく。
- ・小規模校のメリットを最大限に生かし、個々の生徒の情報共有をさらにすすめ、全職員できめ細やかな生徒指導に取り組む体制を強化していく。
- ・「美容服飾」系列のより一層の充実を図るとともに、他の系列の授業内容を検証し、教育内容のより一層の魅力化を図る。
- ・「産業社会と人間」「総合研究」「インターンシップ」を柱とするキャリア教育の系統的な構築に組織的に取り組む。
- ・地域交流・地域連携をさらに推進し、地域に支えられ、地域から信頼される学校としていくため、具体的な取組計画を策定する。
- ・生徒に対する指導時間の確保や、教職員の健康維持のため、会議の整理や組織の見直しを図るなど、業務の効率化に努める。